

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 5	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Examining delinquency in adolescents differentially prenatally exposed to alcohol: the role of proximal and distal risk factors. 思春期における非行と出生前アルコール曝露の関連	
執筆者	
Lynch ME, Coles CD, Corley T, Falek A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol. 2003 Sep;64(5):678-86.	
キーワード	
アルコール曝露、胎児期アルコール症候群、非行行為	
要 旨	
<p>目的： 出生前にアルコールに曝露されることは思春期における非行行動と関係があるとされている。特に、完全な胎児期アルコール症候群ではないが出生前にアルコールに曝露された場合に特に問題があるとされている。本研究の目的は (1) 地域集団においてアルコールへの出生前の曝露レベルと思春期における非行行動との関連について調査すること、及び (2) 非行行動に出生前曝露以外の危険因子が与える影響について調査すること、である。</p> <p>方法： 本研究では主に黒人の若者からなる 250 人の低所得者 (平均年齢 15.1 歳) とその養護者を対象に調査を行った。非行行為、生活上のストレス、薬物使用状況、行動に関する問題、育児状況、良くない仲間の影響、養護者の薬物使用状況および胎児期アルコール症候群の形成異常の有無について調査を行った。出生児の状況で対象を 3 つのグループ、即ち、アルコールに曝露され形成異常が認められるグループ (39 人)、アルコールには曝露されたが形成異常が認められないグループ (77 人)、および非曝露群 (48 人) の 3 つにわけた。英才教育を受けた 84 人の若者を対照として用いた。</p> <p>結果： 曝露群では対照群と比べて非行行為の種類や頻度に違いは認められなかった。少年の方が少女に比べてより範囲の広い非行行為を行っていた。回帰分析を行うと、思春期における生活上のストレスや薬物使用が多いほど、また親の監督が行き届いていないほど広い範囲の非行行為を行っていた。</p> <p>結論： 非行行為の進展には出生前のアルコール曝露だけでなく他の現在の状況も影響を与えているようである。よって、危険因子を調査し、社会文化的な影響や身体障害を考慮することが重要である。</p>	